

結核は、 過去の病じゃありません。

痰がからむ咳、微熱、だるさが

2週間以上続いたら、

もしかして結核かも。

元気な肺をいつまでも。

どうぞ早めの受診、

結核検診を！

日本は、まだ年1万人以上が結核に罹患する「中まん延国」です。

結核は昔の病気ではありません

- 結核は、今でも **年間1万人以上の新しい患者が発生し、約2千人が命を落としている** 日本の主要な感染症です。
- 結核を発症しても、早期に発見できれば、本人の重症化を防げるだけでなく、大切な家族や友人等への感染拡大を防ぐことができます。
- 早期発見のためには、早めに医療機関を受診すること、定期的な結核検診の受診が必要です。

結核の感染

- 結核の症状（長引く咳、たん、微熱、体のだるさなど）には特徴的なものがなく、早期には目立たないことが多いため、とくに高齢者では **気づかぬうちに進行してしまうことがあります**。
- 結核が進行すると、咳やくしゃみなどによって、空気中に結核菌が飛び散るようになります。その結核菌を吸い込むことにより **周りの人に感染が広がります**（空気感染）。
- 結核と診断されても、治療を始めれば1～2ヶ月で周りの人に感染させることはなくなり、6ヶ月～9ヶ月の治療期間、医師の指示どおり毎日きちんと薬を飲めば治ります。

早期発見・早期治療が大切！

- **咳やたんが2週間以上続く、微熱や倦怠感（体のだるさ）が続く**場合は、結核の可能性があります。早めに医療機関を受診しましょう。
- 自治体等で実施している **結核の定期的健康診断**を受けることは、結核の早期発見につながります。

